

事業名称	博物館の魅力発信事業		
実行委員会	博物館の魅力発信事業実行委員会		
中核館	奈良県立橿原考古学研究所附属博物館		
	住所	〒634-0065	
	TEL	0744-24-1185	FAX 0744-24-1135
	ホームページ	http://www.kashikoken.jp/museum	
構成団体	奈良県立橿原考古学研究所・公益財団法人 由良大和古代文化研究協会 一般財団法人 橿原考古文化財団・奈良県立法隆寺国際高等学校・吉野歴史資料館		
事業開始時点の課題分析	<p>当館の所在する奈良県はシルクロードの東の端として飛鳥・奈良時代以来様々な文化、文物が集まり、国際交流も盛んに行われてきた。これらは遺跡・出土品・宗教行事・宝物等として現在に伝わり、奈良のみならず日本のアイデンティティの基盤となっている。こうした地域に所在する当館には国内だけでなく、国外に向けても文化情報の発信拠点としての事業展開が期待されており、昨年度までにもこうした使命・役割を基礎に事業を展開し、外国人や広範な年齢層、障害者に対する鑑賞環境の整備といった博物館のユニバーサル化を進めてきた。一方で、当館は、古事記・日本書紀の伝承地、壬申の乱関連遺跡、万葉集・懐風藻・山家集等の詩歌、大峯奥駈道と山岳寺院、南朝等といった日本文化遺産の宝庫である奈良県東・南部地域の考古資料を豊富に所蔵し、同地域への交通上の経由地点にありながら、同地域の文化資源を十分に有効活用できておらず、過疎地でもある同地域へのアウトリーチも十分ではなかった。そこで、当館の専門性を活かして同地域の文化資源に付加価値を付けて国内外に広く情報発信し、当館を拠点とした周遊エリアの形成を図ることで過疎地の奈良県東・南部の活性化を目指す。</p>		
事業目的	<p>本事業の目的は、過疎地を含む奈良県東・南部地域に当館を拠点とした周遊エリアの形成し、国内外からの観光客・利用者の増加を図って地域の活性化に繋げることである。当研究所および当館の専門性を活かすことで、地域の文化資源に対して他に例のない付加価値を付けて独自性の高い周遊エリアの創出を目指す。そのうえで、地域に関連する収蔵品のデータベース化と多言語化による情報発信を行うことによって、外国人観光客の当館および同地域への関心を高め、海外からの観光客誘致に繋がる環境を整備する。また、自発的な博物館利用から疎遠な山間部等遠隔地の住民を対象に、興味・関心を喚起する催事を行うことで博物館利用を促進するとともに、同地域の文化資源の保存と活用の重要性を理解してもらい機会を提供し、地元への周遊エリアの普及を図る。さらに、広範な年齢層による持続的な博物館の利用促進を目指す。</p>		
事業概要	<p>本事業は次の事業で構成される。当館および当研究所の専門性を活かして地域文化財に新たな魅力を付加したガイドブックを作成し、観光資源となる周遊エリアを提供した。さらに奈良県の主要な遺跡と当館所蔵品を多言語によって国内外へ情報発信することで外国人観光客による博物館利用を促進する基礎を整備し、当館を中心とする観光拠点を構築した。また、小学校での移動博物館により博物館利用者層の拡大を図った。</p>		

<p>区分</p>	<p>(1) 地域の歴史, 地域の有形無形の文化財との連携, 地域の人材交流</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 地域の文化財の魅力発信 ■イ 地域の文化財を活用した多様な活動の充実 ■ウ 美術館・博物館の情報発信機能の強化 □エ 専門人材の育成・確保 <p>(2) 地域の文化施設等との連携</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ア 地域の文化施設との連携による面的・一体的な企画の実施 ■イ 美術館・歴史博物館クラスター(集積地)としての広報活動
<p>実施項目 ・ 実施体系</p>	<p>1. 奈良県東・南部地域の歴史文化資源を活用した地域活性化活動</p> <p>(1) 橿考博と奈良県東・南部地域の文化財を結ぶガイドマップ作成事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ①ガイドマップコンテンツの検討 ②ガイドマップコンテンツの編集 ③ガイドマップの編集 ④印刷・配布 <p>(2) 博物館利用困難地域を対象とした移動博物館の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ①教材用パズルの制作 ②開催地域との事前打ち合わせ ③移動博物館の開催 <p>2. 外国人観光客の博物館利用促進に向けた資料公開活動</p> <p>(1) 所蔵資料のデータベース化と多言語化による情報発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ①公開資料の検討会議の開催 ②公開資料・情報の作成・整備 ③海外に向けた情報発信・広報
<p>実施後の 成果・効果等</p>	<p>本事業の目的は、過疎化が進む奈良県東・南部地域に、当館を拠点とした周遊エリアを形成して国内外からの観光客・利用者の増加を図って地域を活性化させることである。これを実現するために、奈良県東・南部地域の文化財を結ぶガイドマップを作成した。このガイドブックは当研究所および当館の専門性を活かして地域の文化遺産に新たな魅力を付加した独自性の高い内容となっており、当館を拠点とした周遊エリアを提供することができた。また、当館が所蔵・展示する日本の歴史・文化を代表する考古資料のデータベースおよび解説を多言語によって公開し、日本文化を国際発信することで外国人による博物館利用促進につながる基礎を構築した。周遊エリアの提供と資料の情報公開によって、当館が国内外への情報発信基地となる新たな観光拠点を構築することができた。また、博物館利用者層の拡大を図るために博物館利用の困難な地域の小学校で出前授業を行い、当該地域の児童が地元の歴史・文化に触れてその魅力を再発見する機会を提供した。</p>

【事業実績】

1—（1）橿考博と奈良県東・南部地域の文化財を結ぶガイドマップ作成事業

①～④当館を拠点とした周遊エリアを提供するため、奥飛鳥・吉野・宇陀地域の文化資源探訪のためのガイドブックを作成した。成果物は当研究所で配架するとともに当博物館における遺跡見学会等のイベント参加者に配付することで、当研究所・博物館を核として地域の文化資源の活用促進と遠隔地域の活性化につながった。



ガイドブックの配架のようす

<成果物>

『橿考博からはじまる旅 一奥飛鳥・吉野・宇陀一』(平成 30 年度版)

A4判、40 頁、10,000 部

1—（2）博物館利用困難地域を対象とした移動博物館の開催

博物館利用の少ない児童を対象に移動博物館を実施した。地元の遺跡を解説して地域の文化資源の魅力を感じてもらうとともに、普段見る機会のない実物資料に触れる体験を通して歴史や文化に親しみをもってもらうことができた。

○博物館所蔵の実物資料用いた移動博物館の実施。

実施日 10月30日(火)

場所 桜井市朝倉小学校

対象 小学6年生1クラス(21名)



移動博物館のようす

<成果物>

教材用パズルの作成 (300 部)

2—（1）所蔵資料のデータベース化と多言語化による情報発信

当館が所蔵・展示する考古資料のデータベースおよび解説を多言語によって情報発信。奈良県が所蔵する日本の歴史・文化を代表する考古資料のデータベースおよび解説を多言語によって公開し、日本文化を国際発信することで外国人による博物館利用促進につながる基礎を構築した。

<成果物>

多言語(英・中・韓)による館蔵品データベースおよび解説文(当館ホームページで公開)